

集団を鍛える学力づくり・授業づくり

「子どもどうしをつなぐ醍醐味」

加印いろえんぴつ 岸本 ひとみ

正直、このテーマをもらった時には、困ってしまいました。私にとつては、個をきたえることと、集団をきたえることとは、

いつも同時進行で、分離して考えたことがなかったからです。個をきたえつつ、集団をきたえていくと、遅くとも秋口から少しずつ自分のイメージしているような授業が、どの教科でもできるようになっていく…、からです。今回は、低学年の場合を紹介します。

○国語では

どの学年でも、どの教材でも、個をきたえるステップでは、根拠を求めます。

「がまくんは、さびしい気持ちと思いませんか。」

「それは、どの言葉でわかりますか？」

「○ページの□行目に、くと書いてあるから、さびしいと気持ちと思えました。」

低学年では、なかなかその言葉が見つけ

られない子どももいるので、最初は友だちのまねを勧めます。慣れてくると、全員が根拠を言えるようになります。

次のステップでは、それに自分なりの表現を足していくことを求めます。

「くと書いてあるし、絵のがまくんも悲しそうだからです。」

「つけ足して、ぼくもお正月の葉書がこなかったとき、さびしかったからです。」

というようになっていきます。つけ足しとか、同意の意見を出させるのはあまり難しくないで、集団をきたえて、全員が発言の準備をするように学習規律を整えていくのには、このような場面が適していると思います。

また、ハンドサインも決めています。これは、校内で統一されていて、グーは同意または賛成、チョキはつけ足し、パーは反対か違う意見ということになっています。こうしておく、指名するときに、

「グーの人とチョキの人から先に出してもらいます。」

というように、同意を補強する時間を取ったり、

「パーの人もいますね。それでは、反対や違っている人の意見を先に聞いてみましょう。」

として、賛否両方の意見を出させたりすることが、容易にできます。

ここからが、最後のステップではないかと考えています。子どもどうしの発言を整理しながら、それぞれをどうつないで、板書にまとめるか。課題に対するまとめに上げるかを、瞬時に判断していかなければならないからです。

子どもたちと教師の関係や、子どもどうしの関係にも左右されますし、微妙な言い回しや、その時の表情などからも発言の意図を読み取る必要があります。低学年の子どもたちは、同意と言いながら、実は反対意見であったり、その逆であったりということがままありますから、それに気づかせてやる必要もあるのです。

でも、これが授業の醍醐味だと感じます。

○算数では

低学年の算数では、立式も計算も、答えも見たらすぐにわかることが多いので、個をきたえるには適していますが、集団をきたえる場面は意図的に設定しないとなかなかありません。

もちろん、基礎計算であるマス計算や、穴あき九九、わり算のA型等は、授業の最初5分間程度で、毎回設定しています。これが個をきたえ、筋力トレーニングを続けていくような感覚で、中学年以降で生きてくることはよく知られていることです。算数でも、国語の時と同様にハンドサインを使いますが、違うのは、同意のグーがほとんどであることです。

「みんな同じなんですね。じゃ、同じのわけも言ってもらいますよ。」

「わたしは、『食べる』と書いてあるから、引き算だと思いました。」

「ぼくは『食べる』は、引き算言葉だと習ったから、引き算にしました。」

「たべると減るから、引き算にしました。」

「あら？みんな引き算って考えたけれど、わけは少しずつ違いましたね。」

ここでそれぞれの違いを板書して補助してやると、微妙な違いに目が向くようになります。

「でも、みんな引き算と考えたわけだから、式は $23 \div 8$ ですね。」

とまとめます。

また、この次の計算方法でも、いろいろなやり方が出てくることがあるので、子どもたちはうんと考えて、脳がフル回転する様子が見られます。この場合だと、

① 23 を 10 と 13 に分ける。

② $13 \div 8$ は 5 。

③ $10 \div 5$ で、答えは 15 。

と出す子ども、

① 8 を 3 と 5 に分ける。

② $20 \div 5$ で 15 と出す。

という子どもも出ます。また「頭の中で計算した。」という子どももいるはずです。ここでも、

「いろいろな計算の仕方があるね。答えは

15 ですね。」

とまとめるようにすると、授業は盛り上がりします。

あまり、このような意見の出ないクラス

もあります。計算が正確で速く、文章のイ

メージ化ができる子どもが多いクラスの場合は、ほぼ全員がストレートに答えに到達してしまつたため、先のような発問をすると、

「先生何言ってるんだらう。答えは 15 ことに決まってるのに・・・。」

となつて、停滞が起こつてしまいます。教師にとつてはたいへんやりやすい、賢い子どもたちの集団なのですが、油断をしていると、集団として学習する姿勢が薄れてしまふこともあります。

この場合は、逆思考を求められる文章題の単元だと、多様な意見が出ることで、そこで時間をとつて、全員の意見が交流できるように組み立てていくようになります。

○3学期算数のお勧め教材

1年生・かえますか？ かえませんか？

おい ほう すくない ほう

2年生・ちがいを みて

3年生・間の数

よみとる算数

などがあります。